

つちおと

現地視察

前月号で小泉進次郎復興大臣政務官の着任ごあいさつを掲載しましたが、11月24日、25日の両日には、気仙沼支所管内の視察が行われましたのでその概要をお知らせします。(2面に関連記事)

政務官就任前から「TEAM-11」の一員として被災地に足を運ばれていた政務官、訪問の先々で「お元気でしたか」「また来ました」と、再会された多くの方々と挨拶を交わされる姿が印象的でした。また、菅原気仙沼市長、佐藤南三陸町長はじめ、仮設住宅に暮らす被災者のみなさん、南三陸町戸倉中学校の生徒さんなど幅広く意見交換させていただき、折々に随行した私ども担当者に速やかな対応・検討を指示されるなど、復興はまだ道半ばながらも、今被災地に存在する様々な課題を改善したいとの思いを強く感じました。



大島の仮設住宅で住民のみなさんの声に応える小泉政務官

気仙沼第1号 南郷地区災害公営住宅着工

11月7日、旧南気仙沼小学校跡に建設される災害公営住宅の着工式が挙行されました。安全祈願の神事につづき、菅原気仙沼市長はじめ関係者が鍬入れを行い着工を祝いました。この南郷地区には、マンションタイプが3棟(10階建て1棟、6階建て2棟、合計165戸)配置され、集会施設も併設予定とのこと。平成27年早々の入居開始を目指し、これから着々と工事が進められることと思います。工事に伴い、大型車両等の出入りなどがありますが、騒音・振動対策など環境に配慮した施工を心がけるとの説明がありました。新たなまちづくりへの「つちおと」です。復興庁からも事業へのご理解・ご協力をおねがいします。

◆やりました!「東北楽天ゴールデンイーグルス 日本一」。大方の予想を見事に裏切って、東北魂が昇華・結実しました。初シーズンは、草野球さながらの真っ白な練習用ユニホームが印象的、思い出したくない26(ロツテ)-0(イーグルス)という大敗記録も。球団創設から9年、数々の苦難を乗り越え、輝かしい頂点に立ったイーグルス。ひさしぶりに家族がテレビの前に集い心を一つに応援したという声も多く聞かれ、優勝バーゲンのみならず「副産物」もたくさん残してくれた。被災地を元気付けてくれた偉業に拍手。◆何と1,580キャラ(体)がエントリーした「ゆるキャラグランプリ2013」支所管内から、昨年に続き「ホヤぼーや」と「オクトパス君」が参戦しました。結果は、ホヤぼーやが33位(県内22キャラ中トップ)の大健闘、オクトパス君は奮闘しましたが391位となりました。被災地のハンディを背負いながら、大がかりな組織票もないなかで頑張った両君、そして投票したファンの方々にも拍手。◆私事ですが気仙沼生活が2年に近くなった。家族は仙台で「父ちゃん元気で留守がいい」と、家長のことなど忘却の彼方だ。私は一間のアパートで気仙沼の幸を「おすばで」に地酒をチビチビ。それはそれでかなり幸せな事なのだが、正直なところ一人はさみしい。やかましいテレビ相手にブツブツ文句を言いながら、一升瓶の残りを気にしながらチビチビする夜がつづく。(山)

新画に登場!
頑張るぞ〜!



決意を語る両君

11月24日及び25日 小泉復興大臣政務官の気仙沼市及び南三陸町への訪問

前号の冒頭で御挨拶させていただいた小泉復興大臣政務官が、11月24日及び25日に気仙沼市と南三陸町を訪問しました。ここでは、その概要をお知らせします。

大島への訪問

11月24日に、小泉政務官は、まず市役所で菅原市長等との意見交換を行い、その後、大島を訪問しました。

大島では、まず、大島中学校仮設住宅に入居されている皆様と懇談し、日々の生活の様子やお困りのことなどをおうかがいしました。その後、浦の浜漁港に移動し、漁業関係の皆様と懇談し、漁業の復旧・復興の現状や課題などをおうかがいしました。

* 写真は、大島浦の浜港で復旧事業を視察する様子。



平成の森の仮設住宅への訪問



大島を出た小泉政務官は、震災プロジェクトとして始まり、気仙沼市を拠点として手編みのセーターなどの企画、製造、販売等を行っている（株）気仙沼ニットイングを視察しました。

その後、小泉小学校に移動し、小泉地区の視察を行いました。

そして、24日の最後の訪問として、平成の森を訪れ、仮設住宅に入居されている皆様と懇談し、日々の生活の様子やお困りごとなどをおうかがいしました。

* 写真は、平成の森における懇談の様子。

南三陸町の中学校への訪問

25日には、小泉政務官は、まず、カキの仮設処理場でのカキ処理の様子、志津川地区の高台での志津川地区の市街地をそれぞれ視察し、その後、戸倉中学校の生徒と懇談を行いました。

* 写真は、戸倉中学校の生徒との記念撮影。

そして、公立南三陸診療所を視察し、南三陸町役場では佐藤町長等と意見交換を行い、最後に、南三陸さんさん商店街の視察を行いました。





◆特定非営利活動法人 神戸まちづくり研究所 野崎隆一さんに聞く。

今回は、阪神・淡路大震災での経験を活かし、気仙沼でのまちづくりの支援活動や地元の神戸での被災地からの視察の受入活動等、多岐に渡る取組をなさっている野崎隆一さんへのインタビューです。

—震災以降、気仙沼では、これまでどのような取組をなさってきましたか？

気仙沼には、平成23年5月から入り、平成23年9月からは月に1回又は2回の頻度で入っています。

皆さんが仮設住宅に入居し始めた頃には、まちづくりのお手伝いをするためには地元のことを少しでも多く知ることが必要ですから、皆さんのお話に1つ1つ耳を傾けていました。これまでに気仙沼の皆さんが入居する仮設住宅の20か所以上は回っていると思います。また、阪神・淡路大震災の経験から「今後はこのようなことを皆さんで話し合う必要がありますよ。」といったように、予想される大まかな今後の流れを皆さんにお話させていただくこともありました。

その後は、例えば、集団移転の意向が生まれてきた地区では移転に向けたお手伝いをさせていただくようになりました。また、気仙沼に住んで支援活動をしている神戸の仲間には、現在まで、訪問後のフォローや気仙沼の情報を集めていただいたりしています。

現在は、鹿折地区、鮎立地区、只越地区等で、どうすればスムーズに復興が進むかということを中心に置きながら、住民の皆さんと行政との調整、住民の皆さん同士の調整、外部からお越しになって提案等なさる方々と住民の皆さんや行政との調整のお手伝いさせていただいています。今はコーディネーターとしてのお手伝いが多く、設計等を行っていることはほとんどありません。

—気仙沼での支援活動を始めたきっかけはどのようなものですか？

阪神・淡路大震災においては、土地区画整理事業や市街地再開発事業が行われない被災地区において商店街の再生、住宅の共同建替え等における事業コンサルタントとしてお手伝いをしました。その間、様々な経験をし、また、反省することがありました。東日本大震災が発生し、その経験や反省を活かして少しでもお手伝いをしたいと考えていたところ、以前の勤務先の同期の友人が気仙沼に住んでおり、また、関西広域連合が気仙沼市役所に設置した支援本部に知人が詰めていたことから、気仙沼に入るようになりました。

—野崎さんが、阪神・淡路大震災での経験を踏まえ、東日本大震災で被災された皆さんに「これは知っておいていただきたい」と考え、重きを置いて伝えていることがあれば教えてください。

できるだけ後悔せずに復興を進めるためには皆さんがよく議論し、また、行政等と対話することが重要であると考えています。そこで、呼びかけるというほどではありませんが、「待っていたらダメですよ、自分たちで動きましょう。」ということはお話しています。

—阪神・淡路大震災での支援活動と比べて東日本大震災の支援活動で難しいと感じている点があれば教えてください。

阪神・淡路大震災においては、火災や揺れによる被害が多く、復旧・復興事業による建築制限がなければ、被災家屋が撤去され次第、もとの土地に家屋を再建することが可能でした。一方で、東日本大震災においては、津波による被害が多く、移転を行う場合があります。このため、移転を行うために防災集団移転促進事業を利用する場合には住民の皆さんの議論や調整が必要になりますし、移転跡地の利用についても住民の皆さんの議論などが必要になります。このような点が阪神・淡路大震災との違いかと思います。

—震災発生から2年8か月が経過し、また、野崎さんが支援活動を始めてから2年6か月が経過しました。野崎さんが継続的に支援活動をなさる原動力はどのようなものですか？

「まだまだお手伝いすべきことがある」という想いがあり、支援が一段落してもお付き合いを続けたいと思っています。また、地元からまだまだ来てほしいという声もいただきますので、こちらも原動力になっています。

—今後の野崎さんの支援活動のビジョン等があれば教えてください。

東日本大震災からの復旧・復興におけるまちづくりには、地域の抱える問題（人口減少、高齢化等）を踏まえた今後の地域の在り方を考える側面もあると思います。これらの問題は、日本が直面する問題でもあり、また、地元の兵庫でも直面している問題です。そこで、気仙沼の皆さんが、まちづくりを進める中で、これらの問題を考え、議論する中で、私も勉強させていただける面があると感じており、今後も、皆さんのまちづくりのお手伝いをしながら、私自身も勉強させていただく、そんな取組を続けていけたらと考えています。

野崎隆一（のざきりゅういち）さん

昭和18年兵庫県生まれ。一級建築士。

建築事業所の代表や、阪神・淡路大震災からの復興まちづくりに取り組むシンクタンク（神戸まちづくり研究所）の事務局長を務めながら、東日本大震災の発生後は、これまでの経験を活かした震災被災地の支援活動を展開。



被災地の悩みに耳を傾け、まちづくりをアドバイス。図面を指さす姿は、まさに救世主。

11月7日及び8日 第3回地域復興マッチング「結の場」の開催

被災地域の企業が抱える経営課題を解決し、また、被災地域の企業の経営力を強化するために、大手企業等の持つ経営資源（ヒト・モノ・情報・ノウハウ等）を効果的に繋ぐことを目的として行われている地域復興マッチング「結の場」について、平成24年11月の第1回（石巻市）と平成25年2月の第2回（気仙沼市）に続いて、第3回の「結の場」が11月7日及び8日に南三陸町において南三陸商工会と宮城復興局の共催によって開催され、南三陸町の水産加工会社6社と被災地企業の支援に意欲を持った大手・中堅企業等21社が参加し、ワークショップや現地視察が行われました。

また、平成25年2月に行われた気仙沼市における「結の場」については、10月に、経営力強化につながる22のプロジェクトが始動したことが宮城復興局によって報告されています。

気仙沼支所も、引き続き、宮城復興局の一員として、このような取組を進めてまいります。

*写真は、ワークショップの様子。



ナンプレにチャレンジ！！

4				7		2		1
	7	5						
8	3	2		4	1			9
	1		9		4			8
	9						4	
6			2		3		9	
7			1	3		9	2	4
						7	1	
5		1		9				6

ルール

- ・9マスごとの縦の列と横の列にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。
- ・太枠で囲まれた9マス（縦3マス、横3マス）にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。

【編集後記】

◆大掃除の季節が近づいてきました。大掃除をしている最中は「来年こそはまめに掃除しよう」と思うものの、そのようなことを思ったこと自体、毎年この時期になるまで忘れていた自分に気づきました。

(前号のナンプレの回答)

3	6	7	5	1	9	2	4	8
2	8	9	7	4	6	1	5	3
5	1	4	3	8	2	7	6	9
6	7	1	9	2	8	4	3	5
9	2	8	4	3	5	6	1	7
4	3	5	1	6	7	8	9	2
8	4	6	2	5	3	9	7	1
1	9	3	8	7	4	5	2	6
7	5	2	6	9	1	3	8	4

おなじみかきですが！



この時期の美味しいものといえば「かき」

牡蠣が好き！
柿が好き！
どっちも好き！

人それぞれですが、旬のものをいただけるのは幸せなことです。

生産者の方々と自然に感謝しながら、旬を味わいましょう。

これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

①復興庁のホームページ



②宮城復興局



③気仙沼支所だより「つちおと」

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話 0226-23-5301
FAX 0226-23-5310

復興庁ホームページ

<http://www.reconstruction.go.jp/>